

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4071400693		
法人名	医療法人 おがた整形外科医院		
事業所名	高齢者在宅複合施設 サザン		
所在地 (電話番号)	福岡市早良区次郎丸1丁目29番40号 (電話) 092-863-8033		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月20日		
ユニット数	5 ユニット	利用定員数計	45 人
職員数	36 人	常勤	36人 非常勤 0人 常勤換算 36人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	
	4階建ての	2階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	500,000 有	有りの場合 償却の有無	有 3年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	44 名	男性	6 名	女性	38 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	17 名	要介護4	9 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	66 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白十字病院 よしだ歯科医院 福岡記念病院 おがた整形外科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設7年目を迎え母体である医院と共に地域に根ざした施設となっており地域の行事や活動にホームが役目を担い中心的な存在となっている。夏祭りや餅つき大会等地域の行事に職員が積極的に参加している。また、利用者の能力を引き出すクラブ活動やできることの役割等が日常生活の中で極自然な形で取り込まれている。その為か、利用者の表情は豊かで明るい笑顔がみられ、ホーム全体が活気のあるものとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアプランの見直しは行われており職員も担当者会議に出席し実施状況は明らかであるが、見直した後の計画書の作成や家族からのサイン等がわかりにくいものがある。また、モニタリング実施後の記録が明確で無い為、利用者の状態の変化や課題への取り組みや対応を家族や職員等誰が見てもわかるようにすることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に話し合いを行い主任と管理者等が全体会議にて話し合いを行っている。その後サービス提供時に項目に対しての把握や確認を行い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の中での密着した会議となっておりホームと地域との関わり方に活かされたものとなっている。また、家族との懇親の場にもなっているが、市の担当者や地域包括支援センターの出席も望まれるところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月1回は必ず家族が来訪しその際に管理者や職員等が必ず意向や意見を傾聴している。その後、職員が話し合いを持ち早い段階で対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は毎朝の散歩を日課としており地域の住民から声をかけられることもよくあり、ホームが地域に溶け込んでいる様子が窺い知れる。ホームとしても地域活動に積極的に参加し地域との交流を深めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	施設の理念は「利用者が抱える不安を理解し、その人の人生を有意義に過ごせるように奉仕する」との意味が込められたもので、開設当時よりのものであるが、当時より利用者が地域の中でその人らしく暮らせるようまた事業者がその地域に貢献することを前提として開設され、また、それが実践されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は理念について施設内研修に於いて管理者や職員に伝え全職員はその思いを理解しサービスを提供している。毎朝朝礼でも管理者が思いを伝え職員は「明るく愛のある明日」実践している。		
を					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の年間行事の計画等の打ち合わせにホームの職員が参加し地域と共に活動し地元の住民から頼りにされる程交流を深めている。利用者職員が散歩等しているときは地域の住民から声をかけられることもしばしばある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について各ユニットで話し合い、ホーム全体で会議を行っている。全職員が理解し項目毎にサービス提供する上で確認し取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を必ず行い、ホームと地域との関わりや利用者への理解をホームより出席者へ訴え地域からは地域活動への参加を依頼される等懇親の場となっている。出席者は自治会長、家族代表、管理者、事務長等となっている。		定期的な開催があり内容も地域と密着しており充実したものとなっているが、市担当者や包括支援センターの出席が無いようである。市との連携も取れているようであるが、市の担当者や地域包括支援センターに会議に出席してもらい更なるホームの良さを理解してもらいたいのではないだろうか。

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの相談員が入所や困難事例等があった場合に電話や直接出向き相談し、アドバイスを受けている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設での研修が年に1回行われており、マニュアルを用い職員が理解できるようにしている。職員も周知しており必要な時には冊子を準備し対応している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に管理者や職員が必ず声をかけ、個々に状態の説明や報告を行っている。また、必要に応じ電話や手紙で暮らしぶりを報告している。金銭管理についても1ヶ月に1回確認してもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪したときに職員が声をかけ意見を聴ける雰囲気を作っている。各ユニットの入り口には意見箱を設置している。外部へ意見を表せるよう見やすい場所に市、県、国保連の苦情相談窓口の電話番号を掲示している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは5ユニットあるが、其々が孤立せずどのユニットとも交流を図り応援体制が取れる仕組みになっている。利用者への担当制も取っておらず全職員が個々の利用者の状態を把握している為、異動の場合は新人と共に引き継ぎを行ったり他の職員がフォローしている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては特に条件は無いが高齢者への理解があることと高齢者が好きであることを最低の条件としている。採用後は、職員の適性により合ったユニットへ配属するようにしている。また、職員の希望や要望等ではできる限り取り入れるようにしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内で新人研修を行っている。ホーム内でも毎月定例会議を開き教育する機会を作っている。また、職員は福岡県の研修等に参加しホームで伝達研修を行っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人、現任等の研修のプログラムやマニュアルがありそれに従い職員の段階に応じた研修を受けられるようにしている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、福岡県のグループホーム協議会に入会しており、研修会等で他のホームと情報交換をする機会がある。地域では、近隣のホームへ見学に行ったり他のホームから見学に来ることもあり職員同士も交流を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスセンターを利用してもらったり本人、家族にホームの見学をしてもらっている。その後ホームから連絡をし訪問して本人が納得し、徐々に馴染める体制を取っている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	日常生活を職員と共に過ごしながらか本人のできることを見つけできることを喜び合ったり文化祭の出し物を共に考え利用者と職員が協働することもある。また、利用者は職員のことを気遣う姿も見られる等、利用者と職員が相互に支え合い生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を職員がマンツーマンでゆっくりと傾聴しアセスメントを取り職員間で話し合いを行い支援している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らし続けるための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を尊重し、家族の意見や意向を面会時に聴き取り担当者会議にて、それを反映させている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者、ケアマネジャー、職員、家族にて3ヶ月に1回モニタリングを行っている。状態の変化や意向の確認は申し送りノート等を利用しその都度見直しを行っている。		定期的なモニタリングの実施と必要に応じ対応しているが、モニタリングの記録や再作成した計画書が無い為見直した課題等が明確でない。モニタリング票と状態の変化に伴う新たな計画書を作成されることで利用者の状態の変化や新たな意向が誰が見てもはっきりわかるようにされることを希望する。

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	十分なマンパワーと設備でその時の利用者の要望に応じることができている。また、ホーム内に留まらず介護教室を開いたり独居の高齢者宅に訪問することで地域に向けての支援を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を本人のかかりつけ医とし職員同行にて受診を行っている。また、協力医や母体の医師もホームへ訪問し利用者個々に往診できる体制を取っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての指針があり、家族へ説明を行っている。法人のターミナルケアの研修を職員は受けておりホームでできる限りの対応をしていくことは全職員が周知している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権やプライバシーの保護に関する研修を定期的に行い職員は周知している。ホーム内でも、利用者の人格を損なうことなく声かけや対応に配慮が見られた。個人記録は第三者の目に触れることが無い書庫にて管理されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の暮らし方等を入所時に本人、家族と共に話し合いを行い、それに合わせ個々に対応している。利用者のその日の要望や体調により気分転換を図ったり利用者の行動を観察することで本人の意向を把握している。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット毎に個人の能力に応じた役割があり配膳や調理の一部を職員と共に行っている。食事の量や好みも本人の希望に沿い支援を行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間の決まりは無くいつでも入浴できる体制を取っている。日中は併設のデイサービスセンターの大浴場での入浴を希望する利用者に職員が付き添い支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力に合わせて役割分担があり食後の片付けや裁縫や書道等得意な事を本人ができるようにクラブ活動も取り入れ本人の楽しみ事ができるようにしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望やその日の状況にて近隣へ出かけたリスーパーマーケットに買い物に行くこともある。ホーム全体で遠出をすることもある。毎朝の散歩は日課となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの出入り口にはエレベーターがあるが自由に行き来できるようにしており違う階のユニットへ遊びに行く利用者もある。1階の玄関も開錠され誰でもが自由に出入りしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は1年に2回実施しており夜間想定訓練も行っている。緊急時のマニュアルと緊急連絡網に従い対応できるようになっている。		

高齢者在宅複合施設 サザン

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護師にて利用者の栄養バランスと水分量を管理している。食事チェック表に摂取量を記入し利用者の体調を確認している。水分摂取量に関しては必要に応じチェック表に記入している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、壁面には季節感が感じられる花や小物が飾られ生活の場として楽しめる工夫が施されている。廊下の隅には椅子が置かれ休息できるようになっている。洗面所やトイレ等も清潔感があり職員の心配りが伺い知れる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者其々の部屋には、家族の写真や使い慣れた道具がさりげなく置かれ、本人の好みの環境になっている。時には、家族が部屋の模様替えを手伝うこともありその人らしい環境が整えられている。		